

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



# 埼玉ワイズメンズクラブ

## Saitama Y's Men's Club

今月のテーマ：Building Fellowship (仲間意識を育てよう)

2022年  
11月



今年度クラブテーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」



1



2

1. タイ・チェンマイで開催された国際ユース・コンボケーション (9/4～9/9) で世界各地から集まった若者が数日侵食して繋がりを体験。地元の高校生とも交流。参加した木下スタッフ (川越 YMCA) 提供。
2. ユースボランティアリーダーズ・フォーラム (9/30～10/2) 東京 Y 山中湖キャンプ場で東日本各地から参集した新人リーダー達。衣笠メン提供。(ブリテン 9-10 月号より再録)



3

1位	ユースキング	1分 19秒	19位	INTERNATIONAL	1分 19秒
2位	アドバンスクラブ	1分 20秒	11位	国際基督教大学	1分 20秒
3位	朝日新聞	1分 21秒	12位	トースター	1分 21秒
4位	田中電気	1分 22秒	13位	宇都宮の国産米	1分 22秒
5位	味のイヌメンクラブ	1分 23秒	14位	味のイヌメンクラブ	1分 23秒
6位	わいわい食堂	1分 24秒	15位	たんぽぽ	1分 24秒
7位	キッズアカデミー	1分 25秒	16位	とろろん	1分 25秒
8位	コスモス	1分 26秒	17位	分部分分	1分 26秒
9位	味のイヌメンクラブ	1分 27秒	18位	分部分分	1分 27秒

4



5

3. 第 23 回埼玉 YMCA 国際チャリティ・ラン (所沢の航空記念公園) に埼玉クラブのスポンサーで浦和 Y の若者チームが堂々 3 位入賞。あっぱれ!
4. 結果 27 分 36 秒でゴール。
5. 銅メダルが眩しい!
6. 今月「よる談会」(さいたま新都心けやき広場「青蓮」) 斎藤 直氏 (アダプティブ・ワールド代表) を囲んで障害者スポーツを熱く語り合った。



6

## 「第 23 回 チャリティラン」に参加して

浅羽俊一郎



埼玉 YMCA 国際チャリティランがコロナ禍のために過去 2 回変則的な「バーチャル」方式を採用したが、今年の 11 月 3 日（文化の日）には 3 年ぶりに所沢航空公園にて参加者全員一堂に会して開催することができた。当クラブがスポンサーした浦和 Y のユースチームに応援の言葉をかけた。（1 頁写真 3）

いよいよ開幕。まずリレー式チームラン、ついで個人種目と、プログラムは順調に進む。歩くペア、黙々と走る壮年男性、途中でトイレに入る親子。それぞれマイ・ペースで頑張っていた。交通整理係の私の前を次々と通り過ぎる参加者。「ご苦労さま」と言ってくれる人もあれば、こちらの応援に頷くのが精一杯の人も。最後のランナーがゴールインしたところで、私も試しに歩いてみた。10 分強でコースを一周できた。

成績発表・表彰式になって埼玉 Y's チームの 3 位入賞を知り、急いでスコアボードとユースの掲げる銅メダルを写真に収めた。嬉しかった。（1 頁写真 4・5）ただ所沢と川越の兄弟クラブからは数名ずつ参加したのに、こちらはひとり。ちょっと淋しかった。

それでも初参加の私には久しぶりに心配りの効いたプログラム展開に YMCA らしさを感じ、満足した。充実した 1 日だった。❖

## 2 つのユース事業報告会に臨んで

衣笠輝夫

2022-2023 年度、東日本区のユース事業のうち、第 18 回インターナショナルユースコンボケーション（IYC タイ・チェンマイ）と第 34 回ユースボランティア・リーダーズフォーラム（YVLF 山中湖）が終了した。この 2 つのワイズメンズクラブ主催のプログラムは、YMCA のユーススタッフが 2～3 人参加したことで、ワイズメンズクラブと YMCA の協働という観点から、とても意味のあるものとなった。次年度も同様に YMCA のユーススタッフの参加を期待したい。



八王子クラブ例会での IYC 報告会

また、第 18 回 IYC に参加した中央大学 YMCA の学生の活動は 11 月の東京八王子クラブ例会（高尾の森わくわくビレッジ）で報告会とインタビューが行われ、

その様子は今年度の日本 YMCA 大会でも報告されることになった。

注) 9-10 月ブリテンで紹介したとおり、川越 YMCA の木下職員が IYC に参加し、その際埼玉クラブは資金カンパしている。



IYC を報告する中大学 Y 生

一方第 34 回 YVLF に参加したリーダーの報告会も東京世田谷クラブ、東京江東クラブ等で行われた。筆者は江東クラブで行われた報告会に参加したので、その様子を画像で報告する。❖



注) 衣笠メンは今年度は東日本区ユース事業主任と関東東部ユース事業主査を兼務している。東日本区のユース活動を長い間牽引している。

## <11月の聖句>

「初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共におられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。」  
ヨハネによる福音書1:1~3

## MEMBERS' ESSAYS

### 「エキュメニカル運動と皇太后さまの歌をめぐって」

上松 寛茂

「この年の春 草むらに 白い十字の花咲きて  
罪なく人の 死にし 春逝く」

「てのひらに 君のせましし 桑の実の その  
一粒に 重みありて」

これは皇太后美智子さまのドイツ語に翻訳された歌集「その一粒に重みありて」に掲載された2首で、2017年11月にベルリンで出版され、話題となったものを日本エキュメニカル協会理事長で引退牧師の松山與志雄氏が4年前、東京・四谷の聖イグナチオ教会での「皇后(当時)美智子さまの歌について」と題する講演で紹介された。

美智子皇太后さまは、数多くの和歌を詠み、歌集を何冊も出版されており、和歌を通じたその温かいお人柄が多くの人に慕われる貴重な証しとなっている。

「この年の春...」は、2011年3月11日の東日本大震災の翌年に詠まれたもので、皇居の庭に春から夏にかけて草むらに咲くドクダミの白い十字の花をご覧になり、こんなにも春を謳歌しているのに地震や津波で罪のない多くの人々が亡くなった悲しみを追憶した春を詠み、被災者に寄り添う熱い思いが伝わってくる。松山理事長は、「白い十字の花」を十字架にたとえ、皇太后さまのアイデンティティーともいえるその背景を醸し出しているのではないかと語られた。ご両親はカトリック信者で、ご自身もカトリック系の聖心女子大をご卒業になり、聖書に親しんだ時期もあったのではないかと指摘された。

皇太后さまのお歌を詠み続けていくと、ともに生きるという「共生」、「寄り添う」というエキュメニカルな発想の羅列であるかのように思えてくるから不思議だ。

欧米での難民受け入れ拒否、〇〇ファーストが流行語になった時代は今も続いている。ロシアのウクライナ侵攻の改善の兆はない。お互いの存在を認め合い、そのための対話こそがエキュメニカル運動の真髄であり、今、一番求められている最重要な事柄ではないのか。

宗教界でも教理を盾にいがみ合う、一致できない宿命論的な隘路に陥り、停滞したままだ。それどころか、世界平和統一家庭連合の実態は恐ろしいばかりのうすら寒さを感じさせる。

今、我々一人ひとりの生き方が問われている。❖



## YMCA PLACE

### 「アースデイ〜地域交流〜」

2022年10月2日蓮馨寺(川越市)で3年ぶりに「アースデイ川越 in 昭和の街 2022」が開催され、埼玉YMCAもブースを出展しました。

アースデイ川越とは、環境問題、国際交流を主なテーマに1999年から毎年開催されている市民参加型イベントです。

今年はSDGsをメインテーマに、子どもから大人まで、すべての人が持続可能な社会について考えるために実施されました。様々な団体の活動紹介があり、参加しながらアースデイやSDGsについて学ぶ場が設けられました。

参加したYMCAのメンバーたちは、YMCAの出展ブースでボランティア活動をし、楽しむだけではなく、仲間やリーダーとフードロスや環境問題について学びました。また、お小遣いを使ってお団子を購入することにもチャレンジしました。小学校低学年のメンバーは注文する際、緊張していましたが、上手に購入することができました。これからも地域に根差した活動を積極的に行っていきたいと思います。

(浦和・川越センター 長谷川 洋輔)



## ◆ さいたま市の市民活動を知ろう (7)

NPO 法人 新しい住まい方研究所  
「コンドウハウス」

浅羽俊一郎

「グーチョキパーティ」の9月例会はさいたま市立病院からあまり遠くない住宅街にある「コンドウハウス」で開催された。代表理事の太田好泰氏はプロの調理師で、得意はタイ料理。活動を開始してまだ1年経たないが、彼の熱意にほだされた協力者と繋がり、活動は着実に進んでいる。この日は香ばしいタイ料理を一緒に食べながら太田さんの地域の人々、特に障がいのある人、子どもや高齢者が住みやすい地域をめざしたいと言う彼の熱い思いと課題を語ってもらった。



60年暮らしてこられた近藤さんのお宅を改修して子ども食堂や高齢者と地域住民が憩い交わる場を提供していき、コレクティブタウンを目指していきたい、と太田さんは言う。(さいたま市緑区三室 680-1)

注) 「グーチョキパーティ」はさいたま市内で住宅で地域活動をする市民の交流と学習のグループ。元気で意識の高い女性たちの中に浅羽も入れてもらい「き咲きてらす」を応援してもらっている。❖

＜ 心に触れた言葉 ＞ 浅羽俊一郎

“ Stop talking. Think silently.

Stop thinking. Appreciate silence.”

ジュネーブのルーテル教会の英語信徒会でブラジル人牧師が説教で語った言葉だ。黙想すらやめて、静寂そのものを味わいなさい、と。

私を取り巻く音の数々を思う。静寂を味わうどころか、黙想すら私には努力すべき非日常的な行いである。そもそも私の周りにも、私の心中も静寂はなく、黙っても、あれこれ想像し、思いわずらい、邪念が忍び込む。どうしたら静寂を味わえるのだろうか。仏教で言う無の境地か。朝早く街が眠っている頃静けさに耳を傾けてみるが、貨物列車の通過音で静寂は壊される。それでも静寂に耳をすましている間はほかの事を考えていないような気もする。

ある礼拝でこの牧師は説教を中断して静かにしている会衆を前に踊った。彼女は無心に舞った。

## 11月「第8波」例会



日時：11月28日(月) 午後2時～4時

会場：「き咲きてらす」

浦和区木崎3-6-6

テーマ：

- 1) 宣伝効果のあるブリテンを考える。
- 2) YMCAの若手スタッフをどう支援するか。
- 3) 12月例会の計画

\* コロナウイルスが弱化しているといいますが、ワクチンで私たちの免疫力も弱化しているそうです。用心に用心を重ねてお越しくください。

## 仲間のお便り



\* 知っているようで知らないのがクラブの外の仲間の様子でしょう。近況を語るコーナーです。

塀和(はが)さん：さいたま市浦和俳句連盟の俳句大会がありました。私は何故か理事になっておりますが、今年も37名中27番目の成績で、参加者の賛同を得ることができません。

「北風に 乗せて飛ばそう 紙飛行機」

「カキフライ 3つ目は目で 味わって」 愚道

しかし俳句の面白さは自分を深く見つめることなのです……。

浅羽メン：1970年代日本中のYMCAが毎週日曜朝子ども対象に「早朝サイクリング」を実施したことがあった。時代のニーズを掴んでいた。それを思い出し「き咲きてらす」で月1回始めようと思った。先日朝6時、牽引役の吉野さん、衣笠メンと浅羽の3人はママチャリで見沼田んぼを走行。東空が徐々に明るくなっていく中、時々犬を連れて人やジョガーを見かけた。車が少なく気持ちよかったが、上り坂では手押し。流石に歳を感じた。(写真中央がリーダーの吉野理氏。)



10月統計	出席	会員	ゲスト
よる談会(10/10)	4	3	1
例会 (10/24)	4	4	0

編集雑記：11月例会直前だが本ブリテンを会員諸氏に回せそうである。それにしても毎月20日までに発行するという目標が達成できず、忸怩たる思いだ。理由はわかっている。出来上がるとしばらく忘れたいと翌月の準備をつい延ばすから。来月分は今月例会が済み次第、取り掛かろう。上松先輩には毎回急ぎの校正でご迷惑おかけしている。今号の新レイアウトはあくまで議論のためのたたき台だ。